



①小学1年生の30人以下学級の授業風景(三重北小学校)



②中学校教員も交えての小学5年生の英語の授業(笹川中校区)

## 特集:四日市の教育

# 学力向上の取り組み

本市では、「生きる力」「共に生きる力」を育むという基本理念の下、将来を担う人材の育成に努めています。

こうした力を身に付けるには、「問題解決能力」「豊かな人間性」「健康な心と体」「より良い人間関係を育むためのコミュニケーション力」などが必要となってきます。

今回の特集では、中でも「問題解決能力」を向上させるための資質となる「確かな学力」を育成するさまざまな取り組みについて紹介します。



③電子黒板を用いた授業(大矢知興譲小学校)



④読書を活用した「1分間コメント」の実施(左:高花平小学校、右:羽津中学校)



⑤公開授業と教員による事後の合同研修(富田中校区)

# 学校では、こんなことに取り組んでいます

## 少人数教育を推進しています

### ① 四日市市 小1・中1の30人以下学級(左ページ写真①)

教育課程での段差に当たる小学1年生、中学1年生で、市が独自に実施しています。子ども一人ひとりに応じたきめ細かい指導を行うことにより、以下の問題などの予防・解消を図っています。

#### 小学1年生では…

落ち着きがなく着席できなったり、授業中に周囲の児童に話しかけたりするなどの状態が続く「小1プロブレム」



#### 中学1年生では…

小学校との環境の違いになじめず、不登校や問題行動を起こす「中1ギャップ」



### ② 学校教育アシスト事業

市費で非常勤講師を配置し、少人数教育を補助しています。

## ICT<sup>(※)</sup>や独自の学習方法を活用した授業を進めています

※Information and Communication Technology(情報通信技術)の略

### ① 電子黒板やプロジェクタを活用した授業(左ページ写真③)

デジタル教科書や資料を大きく提示することで、授業内容をより分かりやすく示すことができます。また、子どものノートや作品を映し出して発表することで、お互いの考え方を理解・共有し、学習を深めることができます。

### ② コンピュータの活用

小・中学校のコンピュータ室にある40台のコンピュータを活用し、インターネットで調べたり、発表用の資料を作成したりすることで、効率的で分かりやすい学習活動が行えます。

また、機器の操作方法や情報モラルの学習を通して、情報活用能力を高めています。



コンピュータ室(笹川東小学校)

### ③ 1分間コメントの実施(左ページ写真④)

読解力・要約力・表現力などを養うための取り組みとして、読書や新聞記事の活用を通じて、自分の考えを整理し、発表する「1分間コメント」を実施しています。

次のページへ続く

## 「学びの一体化」を実施しています

中学校区を単位として、校区の実情に合わせて、幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携強化を推進しています。子どもの長期的な学びや育ちを見通した指導を目的としています。

幼稚園  
保育園

中学校区単位で連携  
自校区の子どもへの共通認識

小学校

中学校

### 例1 小・中学校における乗り入れ授業(2ページ写真②)

主に、中学校の教員が小学校で授業を行い、相互の理解を深め、自らの指導に生かしています。

小学校高学年の子どもにとっては、入学先の中学校の教員と出会うことで、中学校生活に対する不安感の軽減につながります。

### 例2 授業の公開

中学校区の学校・園で授業を互いに公開し、教員が授業を見合っ、意見交換などを行います(2ページ写真⑤)。

自校区の子どもに対する共通認識を持ち、授業の改善につなげます。

子ども同士の交流も実施しています



## 学力向上のための4つの取り組み

### ① 調査問題の活用

文部科学省が毎年実施する、全国学力・学習状況調査について、本市の子どもの回答を分析するとともに、この調査問題を授業で活用しています。(6ページで分析結果の一部を紹介しています)

### ② 授業の改善

①の分析・調査も踏まえて、授業の改善を行っています。特に、読解力や表現力、問題解決能力の育成を目指しています。

### ③ 学習習慣の確立と学力補充

子どもの実態をよく把握し、家庭学習の定着、放課後や夏休みなどの補充学習の充実に取り組んでいます。



夏休みの自主学习会(西笹川中学校)

### ④ 継続的な学びへの取り組み

学びの空白期間となる春休みに着目し、学年間や小・中学校で連携しながら、家庭学習(課題)を与えるなどしています。

## 「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」の活用

すぐに解決できない問題を、身に付けた知識や体験などを活用して解決する能力を向上させるためのプロセスを、市独自に「四日市モデル」として示しています。そのプロセスを大切に学習指導のため、ガイドブックを全教員に配付し、授業づくりに取り組んでいます。

—四日市モデル—

問題解決能力向上のための5つのプロセス

- ①問題の理解
- ②問題の特徴付けと表現
- ③問題の解決
- ④解決方法の共有
- ⑤問題の熟考と発展



## 情報発信も進めています

全国学力・学習状況調査の分析結果や成果のあった方策をまとめ、11月中旬ごろに市ホームページに掲載する予定です。  
<http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu73282.html>

また、学校だよりなどで自校の「強み」「弱み」を保護者や地域にお知らせし、家庭との協働体制の構築を図るほか、市全体の調査結果をダイジェスト版リーフレットにまとめ、小・中学校で保護者に配付しています。(平成27年度は11月中旬に配付予定)

# 「地域とともにある学校」を目指しています

保護者や地域の皆さんが学校づくりに主体的に参画する「地域とともにある学校」の実現を目指し、取り組みを進めています。

## 四日市版コミュニティスクール

下記の「学校づくり協力者会議」をより発展させた組織として位置付けており、現在、小学校15校と中学校5校の計20校を指定しています。

各指定校では、運営協議会を組織し、委員による「学校づくりビジョン」の承認や実現に向けた協議を行っています。保護者や地域の皆さんの学校運営・教育活動への参画や支援が、組織的・継続的に行われるよう、体制の整備に努めています。

また、学習活動への支援として、地域の人材を生かし、ゲストティーチャーとしてお招きして授業を実施したり、放課後の学習を支援したりするなどしています。

今後も「地域全体で子どもを育てよう」という気運を高め、子どもたちの地域活動への参加を通して地域交流が広がるなど、地域のコミュニティづくりに役立つよう取り組みを進めていきます。

### 取り組みの例



地元農家の指導による茶摘み  
(水沢小学校)



クラブの地域指導者による日本舞踊指導  
(八郷小学校)



地元製麺所の協力による  
手打ちうどん作り(内部小学校)



ゲストティーチャーによる社会科授業  
(三重北小学校)



地区の防災訓練での  
アルファ米の炊き出し(中部中学校)



阿瀬知川の清掃活動  
(港中学校)

## 学校づくり協力者会議

保護者・地域の皆さんに、学校と協働して学校づくりに取り組んでいただくため、全ての小・中学校に設置しています。(上記の四日市版コミュニティスクール指定校は除く)

5人以上の保護者・地域の皆さんなどを委員として委嘱し、各校で年に数回、会議の場を設けたり、実際に子どもが活動している姿を見たりして、意見やアイデアをいただいています。

学校運営の改善や課題解決につながるだけでなく、委員の皆さんの学校に対する理解が深まるとともに、学校が説明責任を果たすことのできる機会としても有効で、開かれた学校づくりを進める上で大切な取り組みです。

# 四日市の子どもの学力や学習状況・現状

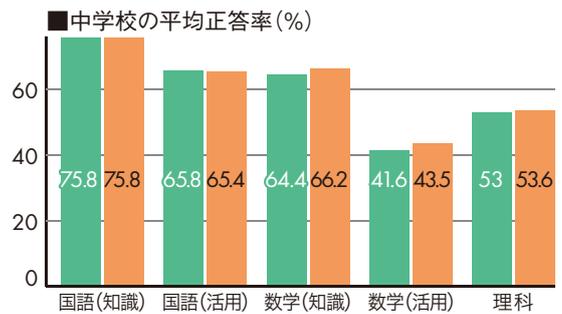
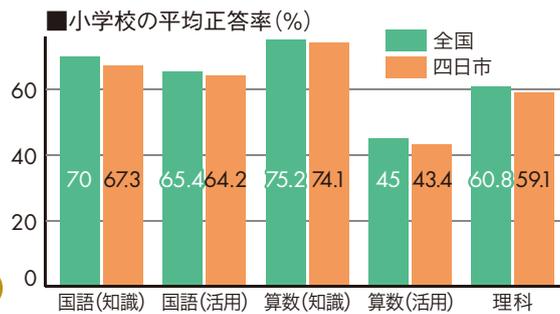
## 全国学力・ 学習状況調査 について

文部科学省が毎年4月に実施する、小学6年生と中学3年生を対象とした学力と学習状況の調査です。

- 学 力 …国語、算数・数学、理科の知識と活用  
(理科は3年ごとの実施。平成27年度の次は平成30年度)
- 学習状況 …子どもの生活や学習などの意識

『学力』の結果は 小学校では全国平均をやや下回り、中学校では国語(活用)を除いて、全国平均以上でした。

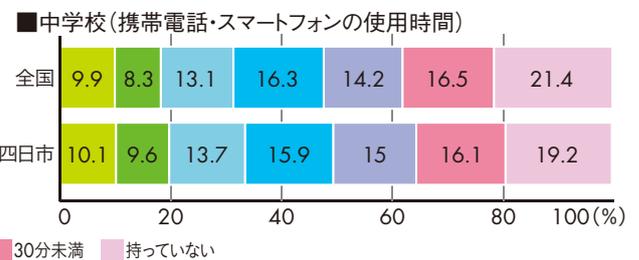
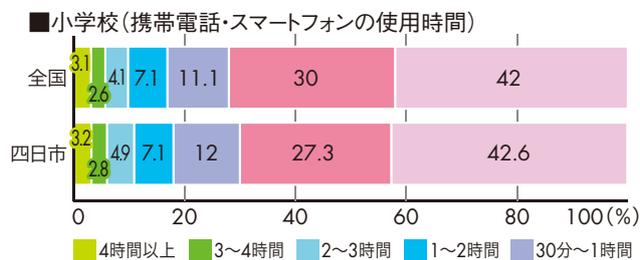
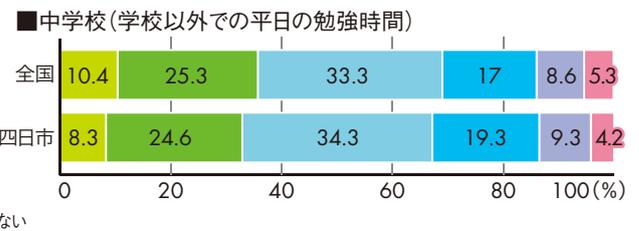
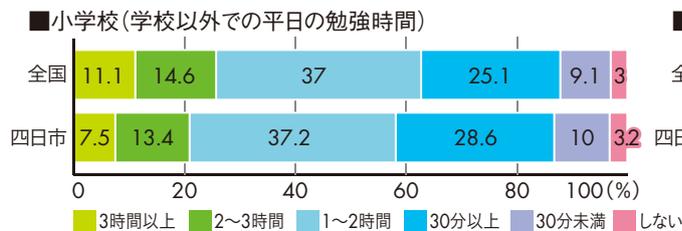
### ポイント



小学校の国語では、基本的な漢字を書く問題や適切な言葉を抜き出す問題、算数では、根拠となる事柄を説明することや、見通しを持って問題にあたることなどに課題が見られました。

中学校では、特に、数学(知識)は全国平均より1.8ポイント、数学(活用)も1.9ポイント高く、全国平均以上の学力を身に付けて義務教育を修了していく結果になっています。

『学習状況』の結果は 小・中学校ともに、「普段2時間以上、勉強をしている」と回答した割合が全国平均より低くなっています。また、「普段2時間以上、携帯電話・スマートフォンで通話やメール、インターネットをしている」と回答した割合が全国平均より高くなっています。



### ポイント

※グラフデータの小数第2位は四捨五入されています

勉強時間については、上のグラフのほか、「休みの日の勉強時間」も全国平均より低い結果となりましたが、「家で予習・復習をしている」割合は、小学校は全国平均と同程度かやや低く、中学校ではやや高くなっています。

また、携帯電話・スマートフォンの使用時間が長くなるにつれて、「学力」調査の平均正答率が下がる傾向が見られ、使用時間が学力に影響することが分かります。

市では、このように毎年の結果を分析し、四日市の子どもの実情把握に努めています。実情を把握した上で、学力を向上させるにはどんな取り組みが必要か、検討を重ねています。



# 「家庭」でできること、考えていただきたいこと

左ページで紹介した「全国学力・学習状況調査」での結果から、家庭での学習や生活習慣が学力に大きく関係することが分かってきました。

規則正しい生活リズムが身に付くように、また、宿題だけでなく、予習・復習などにより学力が定着するように、家庭でのお子さんの様子を、改めて見つめてみてはいかがでしょうか。

## このような子どもほど、学力調査の教科の平均正答率が高い傾向にあります

### 家庭学習

- 学校の授業時間以外での学習時間が長い
- 自分で計画を立てて勉強をする
- 学校の宿題、授業の予習・復習をする

### 基本的な生活習慣

- 朝食を毎日食べたり、同じくらいの時刻に寝たり起きたりする
- 携帯電話やスマートフォンを使用する時間、テレビゲームをする時間が短い

### 自尊感情・規範意識

- 自分にはよいところがあると思う
- 学校の決まりを守っている
- 物事を最後までやり遂げて、嬉しかったことがある

### 家庭でのコミュニケーション

- 家の人と学校での出来事についてよく話をする

## 読書活動を推進しています

読書は、豊かな心や、ものの見方・考え方を育てるのに役立ちます。市では、学校図書館のさらなる活用を図るなど、子どもの望ましい読書習慣の形成を図っています。

また、読むだけでなく、1分間コメント、音読発表会、「読書に関するエッセイ」への応募など、多様な指導の展開を図っています。



お薦めの本の紹介  
(高花平小学校)



朝の10分間読書  
(南中学校)

## 携帯電話(スマートフォン)利用についてのルール作り

インターネットにつながる携帯電話(スマートフォン)は、とても便利な道具です。しかし、携帯電話の利用により、子どもたちの世界が大きく変わり、さまざまなトラブルに巻き込まれるケースも発生しています。

また、左ページの学習状況調査からも分かるように、長時間の使用により学習時間が減少したり、生活や学力に影響したりします。そこで、携帯電話の使い方について、家族で話し合っただけでなく、1分間コメント、音読発表会、「読書に関するエッセイ」への応募など、多様な指導の展開を図っています。

問い合わせ先  
こども未来課 青少年育成室  
(☎354-8247)



## 編集後記

本市では、学校・地域・家庭が一体となって子どもの健やかな成長を見守るとともに、力強く生きていくための力を身に付けてもらえるよう取り組みを進めています。今回の特集が、ご自身のお子さんや地域の子どもに対する皆さんの意識を見直すきっかけとなれば幸いです。(指導課 坂下、広報広聴課 吉田)